



庄内総合支庁農業技術普及課 (TEL 0235-64-2103)

穂肥診断は 6/30 の生育(9.5 葉前後)で！！

食味、品質を決定する重要な時期となりました。穂肥診断は行いましたか？
適期適量の穂肥を行うため、まだ実施していない場合は早急に行いましょう。

1. 生育調査結果 (6月29日調査)

6月29日の「雪若丸」の生育は指標に比べ草丈は短く、葉数はやや遅れているものの、茎数は並み、葉色は並～やや濃く推移しています。

雪若丸の生育状況 (鶴岡市下小中)

	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉数 (枚)	葉色(SPAD)
本年	39.6	650	9.2	43.8
指標	45	670	9.6	42
指標比差	90	99	-0.3	+1.6

2. 6月30日の生育診断

- ◇ 6月30日(葉数は9.5前後)に生育診断を実施し、茎数が750本/m²以下、葉色(SPAD値)が44以下では、「出穂25日前(8月1日出穂の場合7月7日頃)、窒素成分で1.5kg/10a」が追肥の標準施用量となります。
- ◇ 穂肥の遅れ、過剰施肥は食味、品質の低下につながります。適期、適量の穂肥を行いましょう。
- ◇ 幼穂形成期まで葉色(SPAD値)を40未満に低下させないように管理しましょう。
- ◇ 生育量が過剰または不足の場合は以下の表に沿って追肥対応を行いましょう。

	葉色 (SPAD 値)	茎数	追肥対応
適正	40～44	560～750 本/m ²	適期適量追肥
生育過剰	44 以上	750 本/m ² 以上	追肥量を減じる
生育不足	40 未満	560 本/m ² 未満	早めの追肥

※葉色が濃い圃場では「出穂25日前、窒素成分で1.0kg/10a程度」を目安に追肥を行いましょう。

熱中症予防強化月間

- ✓ 農作業中は、こまめに水分と休憩をとりましょう。
- ✓ 体調が悪いときは、無理せず休養を！！